カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学大歓迎！
TEL 03-5950-1771

日本建築の美しさに魅了され、木造建築の学習を決意

第23期生（1年生）　南米コロンビア出身　メンデス　アルシラ　ホセ　マヌエル　さん

東京建築カレッジの2018年度の授業が始まりました。今年の新入生（第23期生）は26人です。高校新卒の元気な研修生たちから、40代・50代で新たな挑戦を決意した人まで年齢層が幅広いのは例年通り。そんな中で、今年はアルファノ・ドメニコさん（第19期、イタリア）以来の外国人の入学がありました。ハローワークで紹介された塗装会社で働きながら、日本の木造建築の基本を学んでいます。

自分の手で刻んで作った初めての継手に感動

東京建築カレッジ第23期生（1年生）のメンデス・アルシラ・ホセ・マヌエルさん（31歳）は南米コロンビア出身です。母国ではEAFIT大学で土木工学を学び、「卒業後は建築の構造設計に関わっていた」そうです。来日のきっかけは、日本人女性と結婚したこと。コロンビアで家庭を持ち、子どもも誕生、幸せな日々を過ごしていましたが「今後の子育ては日本で」と考え、移住することにしました。ホセさんにとっては仕事も変える一大決心でした。

ポスターの木組みの建築に感動

日本で働くためには日本語ができなければなりません。そこで1年間、大久保の日本語学校に通うことにしました。学校の近くに建築カレッジの母体、東京土建一般労働組合の本部会館（けんせつプラザ）があります。そのショーウインドーに、柱と梁（はり）の組み合わせで造る木造建築の写真が掲示されていました。建築カレッジのポスターです。「美しい」と感動したホセさんは中に入って、資料をもらい、学校に入学を相談。建築業界で働きながらでなければ入れないことを知ると、自力で職探しを始め、入学の道を切りひらきました。

クラスメイトを励ます役割も

伝統的な大工手道具のつくり方から始まる授業に今、ホセさんは真剣に取り組んでいます。先生たちが熱心に指導する中、着実に成長を遂げています。先日は「もう疲れた」と弱音を吐く仲間を励ます場面が見られました。ホセさんの挑戦は始まったばかり。学校見学の際は声援をお願いします。

中学・高校の数学の復習を一気に

建築の世界では、数学の基礎的な力、センスが欠かせません。しかし、数学が苦手な新入生は毎年少なくありません。そこで建築カレッジでは入学したらすぐに中学・高校の数学の復習を一気に行なっています。

元都立高校教員（物理）が独自教材「建築職人のための数学講座」に沿って、小学校で習う算数レベルから授業を始めます。「分数同士の割り算はなぜ片方をひっくり返して掛け算にするのか」、「三平方の定理の証明法とは」など、数学の謎解きを明快な論理で説明していきます。建築現場で使う例題も豊富に与え、理論と実践を結びながら授業を進めます。

来春新卒者向け学校紹介パンフ完成

A4判・全8P、主に高校生を中心対象につくりました。ご希望の方にはお送りします。

入学式（4月4日）後の第23期生（新入生）記念撮影。前列中央は小林謙二学校長。第18期生以来の男性だけの入学となりました。高校新卒10人・高卒1年後の入学は2人。最高年齢は58歳。

1年生の授業から

建築カレッジの1年生の授業は、入学式の翌日から日曜日を除き9日間連続の集中授業に入ります。本校は、大工養成の専門校ではありませんが、「日本の建築の基本は木造建築にあり、それを学ぶ上では伝統的な大工技術の学習は必須である」という考えで、カリキュラムを組み立てています。このため、本校の教育プログラム全体の概論的な授業「木造工作法」（橋本英夫講師）、建築職人の実務に引き寄せて中学・高校数学を復習する「建築測量基礎」（黒田順講師）、「安全工学」（佐々木雄司指導員）などの学科授業以外のほとんどの時間を、大工手道具のつくり方、継手（つぎて）・仕口（しくち）の基本を学ぶ実技実習にあてています。

熊本でボランティア活動

新入生の西田安大さんは「幡ヶ谷再生大学」というグループに属し、事業主と一緒に、災害地でのボランティア活動に参加しています。集中授業最終日4月14日の授業後には、羽田空港から熊本へ。豪雨災害地の流木を原材料とする木工グッズのワークショップを開催したそうです。

幡ヶ谷再生大学

2年生の授業から

手道具のつくり方、扱い方から

実技実習の科目名は「木造工作実習Ⅰ」。道具箱づくり、砥石台、ノミの桂直し・裏押し、ノミ砥ぎ、墨壺・墨差し・ノコ引きといった一連の大工手道具のつくり方、扱い方学習が終われば、やっと課題刻みへ。

これらは、プレカット材がほとんどの現在の住宅建築現場では学べないことです。一人ひとりに与えられた新品の大工手道具は2年間の教育課程を修了すれば自分の物になります。最初は同じ物でも手入れや使い方で差がついていく。そんなことからも職人魂を学んでいくことでしょう。

図面の解説を受ける神保遼誠さん（左）、田代楓真さん

ノミ砥ぎの点検を受ける眞坂歩さん（右）。墨田工業高校で建築を学びましたが、これだけ深く手道具を学ぶのは初めて。

2年生では、実技実習で「廻り階段」の授業が始まりました。電動工具も使うため安全学習に時間を取る一方、図面の理解からスタートです。今年1月に上棟した実習棟に廻り階段を取り付ける班もあります。

これまで学んだことを土台に、課題をやり遂げようと全員が真剣な表情で授業に参加しています。5月中旬には廻り階段が完成する予定です。